



田中まさや区議会議員・区政懇談会開催

くらし、福祉、まちづくりなど、意見・要望を出し合い、懇談しました

10月16日に、田中まさや区議事務所、区政懇談会を行い、多くのみなさんにご参加いただきました。

最初に、区議会第2回定例会の報告を中心に、私が区政報告を行い、その後、ご参加いただいたみなさんから疑問や意見、要望などを出して

いただき、懇談しました。

区民にとって最も身近な行政である区政について、みんなで話し合い、交流することの大切さを改めて実感しました。

いただいた要望や意見は、日本共産党渋谷区議団として区長に提出する「2023

年度渋谷区予算編成に関する要望書」(10月31日に提出予定)に反映させるほか、個別にも実現に向けて渋谷区に働きかけていきます。

区政懇談会で出された意見・要望・意見の一部です

くらし

●物価高と年金が減らされたので生活が大変。渋谷区は、税金をため込んで何をしようというのか。区民のくらしのために使ってほしい。

介護・高齢者福祉

●区内の特養でクラスターが発生し、利用者2人が亡くなった。水際対策が不十分で。

は。感染者が出たら、夜勤は休憩なしの一人勤務になる

●特別養護老人ホームはなかなか入れないと聞いた。幡ヶ谷社会教育館隣の都営住宅跡地を活用して、特養をつくってほしい。

まちづくり

●幡ヶ谷2丁目の7号通り公園内のトイレは、危険で使いづらい、どうしてこんなトイレになったのか。(左に詳しくご紹介しました)

国政について

●安倍元首相の「国葬」は、憲法違反とは言えないのではないか。

「危険・使いにくい」7号通り公園内トイレは 区の責任で、安全・安心、だれもが使いやすく

日本財団と渋谷区などは、「THE TOKYO TOILET」プロジェクトと称して、区内17カ所のトイレを整備しています。このプロジェクトは、日本財団が運営し、渋谷区、大和ハウス、TOTOが協力し、ユニクロのファーストリテイリンググループの柳井康浩氏が資金提供などで協力しています。

その中の1カ所が、幡ヶ谷2丁目・7号通り公園内のトイレです。このプロジェクトは、「誰もが快適に使用できる公共トイレ」、「多様性を受け入れる社会の実現」を目的にしているようですが、7号通り公園内のトイレは、多くの住民から「入口が通りと反対側で危険」、「個室トイレは1カ所で、女性は怖くて使えない」などの声が寄せられています。

公園内トイレは、本来、だれもが安心して使いやすいものにすることが、行政の責任です。このトイレを見ていると、渋谷区は、外見ばかりを優先して、トイレを使う区民の立場に立っていないことを実感します。

一刻も早く、渋谷区の責任で「安全・安心で、使いやすい」トイレに整備すべきです。

7号通り公園内に整備されたトイレ



トイレの入口は、水道道路(左手)の反対側にあり、入口前の植栽で陰になっていることから、「女性は危険で入れない」との声が…。



男性トイレには「個室」がないため、男性は「男女共用の個室」を使わざるを得ません。結局、女性は特に「個室」を使いにくくなっています。